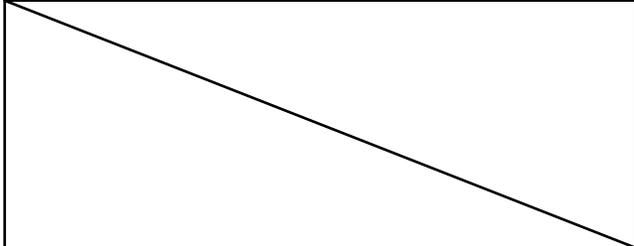


第4回検討委員会のまとめ

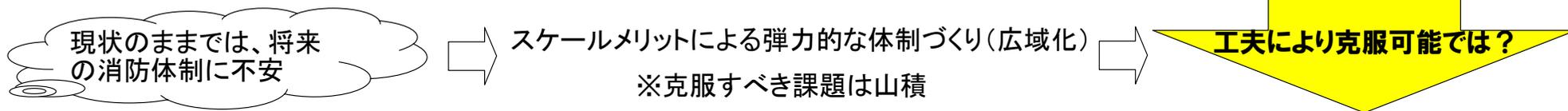
1. 広域化によるメリットの比較

消防庁	VS	高知県
部隊数の増加 ・初動台数の増加、応援体制の強化	住民サービスの向上	一定の効果が期待できる ≫主に高知市近郊が、メリットを受けられると思われる。（他地域は署所間に相当の距離がある）
消防署の配置や管轄区域の適正化 ・現場到着時間の短縮		一定の効果が期待できる ≫署所の管轄区域の見直しは、効果が表れやすい。（15地域約13,000人は隣接本部の署所が近い） ≫署所の配置については、将来的な消防需要の動向による。 ≫上記は、ともに119番受信区域の変更、または指令の一元化が必要となる。
本部要員の効率化 ・本部要員を効率的に配置することにより、余剰人員を現場対応要員に配置する	消防体制の効率化	同様の効果が期待できる ≫効率的な人員配置が可能になるが、非番招集の解消には至らない。
重複投資の回避 ・車両や無線設備などの重複投資が避けられる		同様の効果が期待できる ≫車両等を計画的に整備することが可能となる。
財政規模の拡大 ・高度な設備・施設の整備	消防体制の基盤の強化	同様の効果が期待できる ≫必要最小限の車両等の整備と併せて、特殊車両等の計画的な整備が可能となる。（財政の弾力性）
組織・人員規模の拡大 ・適正な人事ローテーションによる組織の活性化		同様の効果が大きく期待できる ≫組織、人員規模の拡大により活性化・技術のスキルアップが期待できる。
予防・救急業務の高度化・専門化 ・救命士の育成、予防関係職員の育成など		同様の効果が期待できる ≫本部機能統合による現場体制の再構築により、専門職員の育成が期待できる。
	そ の 他	その他、広域化の規模が大きいほど、弾力的な経営が可能 ・組織面（現場・本部） ・財政面 ・将来予想される厳しい環境にも対応し得る体制づくり

第4回検討委員会のまとめ

2. 広域化における課題の整理

	広域化における各課題		留意すべき事項及び考えられる方策等	
	例示			例示
住民の視点	消防署所の統廃合につながるのでは？	＜消防体制(消防力)の変化への不安＞	・広域化の趣旨の徹底(消防、市町村、県) ・地理的に疎くならない部隊編成	→ 住民説明会の実施… ・積極的な広報活動… ・人事面での配慮…
	火事や救急の時、今までより対応が遅くなるのでは？			
組織運営管理の視点	ひとつの消防本部の管轄面積が広がるが、今までどおりの対応が可能なの？ 予防(立入検査、建築同意、危険物、出火原因調査、防火訓練)等	＜消防本部と消防署間の連携＞	必要に応じ本部業務の一部を一定エリアごとに残す配慮	→ 署への事務委任…
	災害時に市町村との連携が希薄になるのでは？	＜市町村との連携＞	市町村防災部局との連携、災害対策本部への参加による連携強化の検討	→ 職員の併任… 防災業務の初動連絡の委託…
	消防団との連携が希薄になるのでは？	＜消防団との連携＞	緊密な連携を維持・強化する仕組みの検討	→ 常備との連絡調整担当団長の設置、各消防署所との定期的な訓練や連絡会議の開催、連絡通信手段の確保…
	その他関係団体との連携はどうなるの？	＜地域への密着性＞ (女性防火クラブ・自主防等)	身近な窓口の設置	→ 消防本部から各消防署所へ委任…
	職員採用、人事異動、職員の処遇の違いはどうするの？	＜人事及び組織管理＞	地域の消防力や職員の士気の低下につながるなどの適切な配慮	→ 段階的な環境整備…
	各本部によって異なる消防力(通信システムを含む)をどう調整するのか？	＜消防サービスの平準化＞	地域の消防需要等を踏まえた検討	→ 部分的段階整備 or 段階的整備…
	それぞれの市町村の財政負担はどうなるの？	＜構成市町村の財政力の差異＞	・初期投資 ・経常的な運営経費	→ 財政担当者も含めた合理的な調整…



「消防広域化推進計画」策定後、広域化対象市町村でより具体的な検討を行ない「広域消防運営計画」に考え方を反映